

平成21年度 第2回芦屋市立義務教育諸学校教科用図書採択協議会 会議録

日 時	平成21年7月10日(金) 15:00~16:00
場 所	北館2階 第4会議室
出席者	委員長 斎藤 佳昭 副委員長 後藤 容子 委 員 西村 直樹 永田 守 上月 敏子(欠席) 山田 和廣 専門員 伊藤 進二 守本 明範 間瀬 吉浩 事務局 伊田 義信 北野 章 岡田 力 石政 明代
会議の公開	公 開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

(1) 報告事項

調査専門員報告

(2) 協議事項

平成22年度中学校社会科歴史分野で使用する教科書の採択について
平成22年度特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(3) 答申

(4) 事務連絡

2 提出資料

資料1 平成21年度特別支援学級における一般図書の使用状況

資料2 平成22年度使用教科用図書調査研究報告書

(中学校社会科歴史的分野および特別支援学級用一般図書)

資料3 教科用図書および一般図書見本

3 審議経過

上記の協議事項について、調査専門員より報告を受け、以下の質疑応答を行った。

(委員長) 最初に歴史教科書の採択について協議を進める。専門委員からの調査研究の報告後、質疑応答をお願いする。新規参入の自由社の教科書は、現行の教科書と比較してどうか。

(間瀬専門員) 自由社の教科書は、非常に多くの内容が盛り込まれている分、字が小さくて読みづらくなっていることが難点である。特に、関連資料が多く掲載されているが、難しい内容のものも多い。現在、使用している教科書の方が資料、写真、地図等がバランスよく配列されていて、わかりやすく、生徒の興味・関心を引き出しやすいものになっている。

(副委員長) 歴史の教科書は何年生で使用するのか。

(間瀬専門員) 1, 2年生で使用している。地理と歴史は併行して学習を行なっている。

(西村委員) 難しい内容というのは、学習指導要領の範囲を超える内容なのか。

- (間瀬専門員) 内容としては、学習指導要領の範囲内であり、資料も読み物教材としては、おもしろいものもあるが、生徒にとっては難解なものも含まれている。
- (委員長) 特段、自由社のものがよいという意見がないのであれば、現行の教科書が使いやすいという意見を尊重するのが望ましいのではないか。
- (事務局伊田) 現行の教科書は、大阪書籍の版を受け継いだ日本文教出版社から発刊される。日本文教出版社には、これまで独自に発刊してきた歴史教科書もあるので、現行の教科書が採択された場合には、現場の先生方が、この教科書と混同しないよう、周知を徹底させたい。
- (委員長) 次に、一般図書の採択について、専門委員からの報告後、質疑応答をお願いします。
- (副委員長) 一般図書は、内容の改訂があまり行われておらず、挿絵も古いものが多い。県が採択した155点をそのまま芦屋市でも採択したいということだが、新しい図書を市独自に追加することはできないのか。
- (守本専門員) 精査して155点にしぼってきた経緯もあり、新しい本をリストに追加することは難しいが、別に子どもの指導に必要な本があれば、副教材として各学校が別予算で購入することはできる。
- (副委員長) 特別支援学級に在籍する児童生徒は、障がいの種別によって人数に多少はあるのか。
- (守本専門員) 知的障害の学級に在籍する児童生徒が多いが、近年、自閉の児童生徒も増えている。障がいの程度が軽い児童生徒は、普通学級の在籍となっている。
- (副委員長) 拡大教科書が選定されているが、市内で視覚に障がいのある児童生徒はいるのか。
- (守本専門員) 小学校に在籍しているが、弱視の特別支援学級は設置されていない。
- (副委員長) 拡大教科書は文字が大きく、全ての内容を盛り込むことはできないのではないか。
- (守本専門員) 拡大教科書は、内容を分け、分冊にして発刊されている。
- (副委員長) 内容が、読み書き計算が中心となっている図書もあるが、障がいのある子どもにとっては、読み書きよりも、社会性、ソーシャルスキルを育てる本がもっと必要なのではないか。
- (守本専門員) 155点の一般図書は、全ての教科に対応できるように選定されている。ソーシャルスキルを育てる指導は、教科指導ではなく、主に自立活動の中で行われる。自立活動に用いる図書は無償措置の対象とならない。
- (山田委員) 実践の中で生きる力をつけることが大切。教科書の内容がどうかということ以上に、指導する教師の力量が問われるのではないか。
- (副委員長) 先生をある程度一律にサポートできるような内容の本があるとよいのだが。
- (守本専門員) 教科書で教えるのか、教科書を教えるのかが問われている。教科指

導を中心とする場合は、下学年本を使うという選択もある。
(委員長) 意見が色々出されたが、専門委員からの提案に対して、直接変更を求める意見はなかったと判断し、答申を出したい。

4 結論

- (1) 中学校社会科歴史的分野については、現行の教科書を妥当と認める。
- (2) 特別支援学級で使用する教科書については、以下の順番で採択することが妥当である。

通常の学級で使用する教科書(障がいの実情によっては下学年本とする)
特別支援学校用 文部科学省著作本(印本)
別添資料で選択した「けんちゃんとおそぼう1 のってのって」他154点の
一般図書
拡大図書

5 参考

平成22年度使用教科書【中学校】

国語(光村図書), 書写(東京書籍), 社会[地理](日本文教出版), [歴史](日本文教出版)[公民](日本書籍新社), 地図(帝国書院), 数学(日本文教出版), 理科[1分野](啓林館), [第2分野](啓林館), 音楽[一般](教育芸術社), [器楽](教育芸術社), 美術(日本文教出版), 保健体育(学習研究社), 技術家庭[技術分野](開隆堂), [家庭分野](開隆堂), 英語(東京書籍)

平成22年度使用教科書【小学校】

国語(光村図書), 書写(光村図書), 社会(日本文教出版), 地図(日本文教出版), 算数(啓林館), 理科(啓林館), 生活(東京書籍), 音楽(教育出版), 図画工作(日本文教出版), 家庭(東京書籍), 保健(学習研究社)